

SSKA

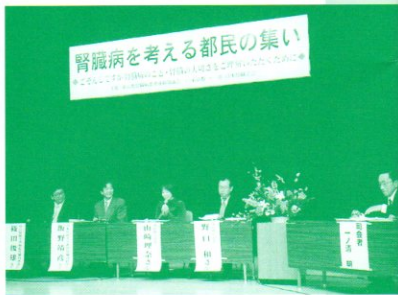
東腎協

2002年 4月21日

No.142

東腎協第30回総会議案集

★4月21日、結成30周年記念総会に参加しましょう★
当日この議案集をご持参ください



東京都腎臓病患者連絡協議会(東腎協)

事務局・〒170-0005 豊島区南大塚2-38-1 一橋ゼミナール新本社ビル6階
郵便振替口座 00150-0-128390 ☎03-3944-4048 FAX03-5940-9556
E-mail touzin@msj.biglobe.ne.jp <http://www.normanet.ne.jp/~touzin/>

東腎協第30回

総会 次第

開会あいさつ

議長団選出

会長あいさつ

〈報告事項〉

活動報告、決算報告

監査報告

〈審議事項の提案〉

活動方針案、予算案

スローガン案

総会宣言案

新役員選出

閉会のあいさつ

〈総会終了後、記念パネ
ルディスカッション〉

第30回総会の案内

東腎協規約第6条により、第30回総会を左記のとおり東京年金基金センターセブンシティホールにおいて開催します。会員・家族のみなさんお誘い合わせてご参加ください。

記

日時 2002年4月21日(日) 午前10時開場
第30回総会(午前10時30分から)

パネルディスカッション

「結成当時をふりかえり、今を語る」

司会・ジャーナリスト 松村満美子

小出桂三先生(社会保険都南総合病院名誉院長)

大坪公子先生(三軒茶屋病院院長)

小林孟さん(社・全国腎臓病協議会常務理事)

木村妙子さん(東腎協事務局次長)

会場 東京年金基金センター セブンシティホール(B1F)

TEL 03(3376)5101

FAX 03(3375)0118

*総会は午前10時30分から行われますので、参加者には昼食を用意します。

*CAPDバッグの交換のための小部屋を用意してあります。

*参加者はこの議案集を必ずご持参ください。

交通・JR新宿駅西口より徒歩15分

・新宿駅西口京王バス乗り場

・新宿駅西口京王バス乗り場

(新宿京王デパート横20番)より中野駅行き(西新宿小学校)下車斜め前

駐車場 利用できませんので、公共交通機関において

ください。



二〇〇二年度活動報告

一、はじめに

東京都は昨年度、マル障や福祉手などの福祉施策を大幅に圧縮したのに続き、今年度は都立病院を統廃合し、地域病院として公社化さらには民営化を目指すなどとする改革案を発表しました。

その中には都立病院で唯一の腎不全センターが設置されている大久保病院が含まれています。これは都として、もう透析医療は重視しないという意味であり、今後マル都などの医療費助成や腎疾患対策の後退につながる恐れがあります。私たちにとつて到底看過できない問題ではなく、今後都立病院としてその責任を果たすよう、いっそうの運動強化が望まれます。

一方、国においてもかつてない大幅な透析医療費の引き下げが行われました。特に外来透析の食事

加算の廃止は私たち患者や透析施設側にも混乱を起しかねない問題で、慎重な対応が求められます。また、透析時間制の廃止や慢性維持透析患者外来医学管理料やダイアライザーの購入価格の引き下げは、病院の減収につながり、今後スタッフの削減や治療の合理化などにより、医療の質が落ちたり、医療事故が増えたりする危険性があります。

これからの厳しい透析医療環境を乗り切らるためには、病院側と連絡を密にして、良い関係を作っていくことが望まれます。

また、東腎協の組織上の問題として、今年度は副会長が2名、常任幹事が1名亡くなり、東腎協の活動に大きな影響がありました。最近、執行部である常任幹事の高

齢化や長期透析の合併症で任務を果たせずに辞めなければならなくなる人も多く、このままでは一部の役員に過大な責任がかかったり、活動が停滞することも考えられます。

二、主な活動と成果

1、全国的な活動に

ついて

(1) 医療費について

今年2月6日の中央社会保険医療協議会（中医協）総会前に全腎協は1月31日、その検討項目の内容を各県組織宛、至急FAXを打電しました。

その内容は①外来透析の時間制の廃止②食事加算の廃止③慢性維持透析患者外来医学管理料の引下げで、透析患者に大きな影響を与

す。東腎協はこのような厳しい環境の中で今年度の活動を行ってきました。以下に概略を報告いたします。

える内容となっています。

東腎協は、全腎協から指示のあった会長名による中医協委員への要請文を送る他、2月1日付で各幹事宛に緊急連絡として「透析医療費の大幅改悪案に対する反対がき運動のお願い」文を送り厚労省保険局医療課長あてと、中医協委員長あてのはがき要請運動に独自に取組みました。

また、中医協総会開催の当日には委員へのピラ配り行動にも参加しました。その折、次回の会議の傍聴を希望しましたが、主としてマスコミ対応との理由で受け入れ

てもらえませんでした。

中協協は2月20日に最終総会が開かれ、開催時に厚労省前でピラを配るとともに、関東を中心に駆けつけた63人(東腎協参加者22人)が歩道上に座り込みを遂行しました。

しかし、私たちの必死の願いは聞き入れてもらえず、詰問案どおり答申されました。その結果、外来透析の技術料は従来あつた3段階の時間制が廃止となり、診療報酬点数も従来の4時間より150点少ない1960点に、慢性維持透析患者外来医学管理料(検査料)も従来の2800点から2670点にそれぞれ減額されました。また、1989年に全腎協の運動でかちとつた食事加算(63点)も廃止となりました。

(2) EPO製剤の狂牛病

対策

国の対応のまずさから狂牛病問題が大きな社会不安を引き起こしています。私たちが使っているエリスロポエチン製剤が厚労省の「日本産ウシ等原料を使用した製品」リストに取り上げられた問題で、全腎協は中外製薬ならびにキ

リンビールに対し、その対応を照会しました。

その結果、中外製薬は、旧来製品の製造を中止し、昨年5月からはゼラチンを添加していない溶液製剤エボジンスを販売しており、現行製品についても安全性に問題ないとしています。

一方、キリンビールも感染のリスクのない部位を使用しているの、安全性に問題はないといいますが、12月10日からは牛のゼラチン質を使わないエリスロポエチン製剤の出荷を開始したとのこと

(3) EPO訴訟の経過

造血ホルモン治療報酬カットをめぐって争われている「EPO訴訟」は、昨年2月7日の第6回公判で原告側は、争点となっているエポの効能を陳述したおよそ2万字に及ぶ準備書を提出しました。準備書面は、保険適用を厳しく制限する神奈川県と全国の状態と比較し、神奈川県と全国の状況を比較し、神奈川県と全国の貧血状態は最低水準だと批判しました。その後、4月から10月までに5回の公判が行われましたが、いずれも被告・神奈川県国保連は終始

医学論争を避け、裁判長から原告側主張への医学的な反論をするよう促されるほどでした。

12月19日の第12回公判ではようやく信楽園病院の鈴木正司先生を証人として、口頭尋問が行われました。次回2月20日の公判ではいよいよ原告である中井洋先生が証言台に立ちます。

(4) 透析患者

20万人を突破

第46回日本透析医学会総会が昨年6月22日から24日にかけて大阪で開催されました。わが国の慢性透析患者は2000年12月31日現在20万6112人で、初めて20万人を超えました。

また、昨年1年間に透析導入した患者は3万2018人で、亡くなった人は1万8938人でした。透析導入の36・6%は糖尿病が原疾患で、慢性糸球体腎炎から透析に入った人は32・5%とさらに差が開きました。また、学術総会では全腎協が患者の実情に関して、2題の発表を行いました。

(5) 脳死臓器移植の実施

1997年10月の臓器移植法の

施行後4年余りが経過しました。2001年1月以降8例(通算18例目)の脳死とられた方々から、単い臓器提供がありました。

しかし、腎移植の待機患者数は2001年1月末現在で1万3153人もいます。移植を希望してもほとんど幸運な人ではない限りは、登録したまま亡くなってしまふというのが現状です。ちなみに2001年1月から12月までの腎移植数は151件でした。

厚生労働省の臓器移植委員会は昨年9月10日、従来はHLA型の最も適合する患者を全国から選んでいきましたが、今後は提供者と同じ県の患者を最優先に選ぶことを決めました。これにより、(社)日本臓器移植ネットワークのコンピュータソフトの更新が終わったこと、本年1月10日から新しい選択基準が適用されました。

(6) 透析施設における

医療ミスを対策

透析は、多くの患者を社会復帰させる医療として定着していますが、しかし、大量の血液を体外循環させるという、基本的な部分では常に重大事故のリスクを持つ医療だ

といえます。

最近の肝炎の集団感染で透析にかかわる医療死亡事故が多発したことを受けて、平成11年度に作成された「透析医療における標準的な透析操作と院内感染予防に関するマニュアル」に続き、厚生労働省は平成12年度に「透析医療事故の実態調査と事故対策マニュアル」の策定に関する研究班を設置し、平成13年4月に「透析医療事故防止のための標準的透析操作マニュアル」を作成しました。

私たち自身の透析治療現場でも穿刺針が抜けたり回路と針がはずれるなどの、重大事故につながる経験があります。患者自身も、透析医療事故の予防のために積極的に透析施設と話し合い、事故を未然に防いでいくことが必要です。

(7) 全腎協が結成30周年

昨年6月、全国腎臓病患者連絡協議会（現社団法人全国腎臓病協議会）は結成30周年を迎えました。1971年6月6日、東京・大手町の都立産業会館で開いた結成総会には、「どしゃぶりの雨のなかを230用意したイス席がたりなくなるほど」（「全腎協」創刊号）

に全国各地から多数の患者・家族らが集まりました。

結成後、短期間で透析費用の患者負担解消と人工腎臓の増設をかちとった全腎協は今年、10万人を超える会員のもとで21世紀を迎えました。

30周年の記念すべき大会は5月20日、江東区のホテル「イースト21東京」で開催され、東腎協は全腎協とともに主催団体として大会を運営しました。

(8) 全腎協が災害見舞金

制度を創設

1995年の阪神・淡路大震災後にも会員や透析施設が被害を受ける自然災害が多発しています。

全腎協はこれまで大規模災害に限り、随時、見舞金を募集し被災会員に贈ってきましたが、災害の規模や、被災会員の数、募金額などから見舞金の額に差が出ていました。

そこで、全腎協では昨年から委員会を設置し、自然災害被災会員に対する見舞金制度を検討してきました。その結果、会員が自然災害により一定基準以上の被害を被った際に「見舞金」を支給するこ

とを決め、そのための「災害見舞金支給規程」を作成し、「災害見舞金基金」を設置、今年4月1日から発効しました。

不幸にして、見舞金の請求に該当するような自然災害に見舞われたときには速やかに東腎協事務局まで連絡ください。見舞金の支払基準は本人の死亡または家屋の全壊で10万円、家屋半壊5万円、一部損壊及び床上浸水3万円などとなっております。

(9) 国会請願運動に

ついで

署名数が初めて100万人を超えた第30次の全腎協の国会請願は、昨年6月29日閉会の第152通常国会で、衆参とも全会派の賛成で採択されました。一方、日本患者・家族団体協議会（JPC）が6月に行った「総合的難病対策の充実を求める」国会請願は残念ながら不採択となりました。

昨年10月から取り組んだ第31次の国会請願署名・募金は2月15日現在、全腎協分が5万9765人、JPCが4万6478人で募金額は344万3901円でそのうち122万6000円を全腎協に納

めました。

また、第31次請願の国会行動は3月28日に行われることになっていました。

今年の国会請願署名・募金運動は日本経済が一向に立ち直る気配が見えない中で、その影響を受けて、署名数・募金額ともに前年30次の数字に及びませんでした。今年度の署名もぜひとも採択され、「腎疾患総合対策」の1日も早い実現を期待したいと思います。

2、東京都に対する

要請活動

(1) 予算要請活動に

ついで

2002年度東京都予算に関する要請を昨年6月28日、都庁会議室において行いました。要請先は、衛生局、福祉局、産業労働局、総務局、教育庁の4局1庁で、東腎協からは糸賀会長ら11人が出席しました。以下にその要旨を報告します。

また、組織替えとなった東京労働局へは10月26日に要請を行いました。

●(衛生局)

今後の医療保険改革後も、医療費助成制度を適用して、自己負担が生じないように求めたのに対して、「都は自己負担軽減のため、昨年9月からマル障との併給を制度化した」と回答がありました。

都立病院改革については、都の直営を守り充実・発展させてくださいと要望しましたが、「この問題は現在『都立病院改革会議』で審議中」とのことで回答はありませんでした。

その後、7月13日に発表されたその「報告書」によると、唯一腎不全センターが設置されている大久保病院の公社化、民営化を含む都立病院再編の考え方が示されており、東腎協では7月23日に都立直営を守り、充実・発展させるよう要望書を提出しました。

地震等の災害対策については、1997年3月に作成した「災害時における透析医療活動マニュアル」の改訂版ができがあり、各医療機関に配布した」と述べました。

●(教育庁)

児童、生徒に対する学校検尿による腎臓病の早期発見と、学内での予防と管理を徹底して下さい、

との要望には「1973年より検尿を実施し、腎臓病、糖尿病等と診断された人達には管理指導表にもつき主治医と協力して治療指導している。今後は全員検尿を受けられるよう努めていく」との回答でした。

●(福祉局)

「マル障」や「心身障害者福祉手当」を改正前の適用基準に戻すよう要請したのに対し、「2000年12月、福祉改革推進プランを作成して在宅サービス等を充実させるなど、新たな制度に取り組んでいく」としている都の政策を理解して欲しい」と説明しました。

高齢者福祉・医療の複合施設の建設について、要介護透析患者が利用できるように求めたのに対して、特色は痴呆性高齢者の専門的な医療を物理的、先駆的に行なう施設となっている。地域の医療機関で対応困難な痴呆性高齢者等の患者について高度の医療を提供することを目的に現在建設中、この複合施設においての透析導入や維持透析のためのベットは考えていません。との回答でした。

●(産業労働局)

平成12年度から就職の斡旋については基本的には東京労働局の所管となり、これまでの「労働経済局」は「産業労働局」に改組されました。

それに伴い東腎協の要望も、透析患者が働けるような環境づくりと、雇用拡大については国への働きかけをお願いする内容になりました。

これに対し当局は、今後とも、国の組織である東京労働局、ハローワークをはじめとした関連機関と協力して各種施策を実施して行きたい、と回答しました。

●(総務局)

東京都における身体障害者の雇用率を5%に引き上げること、年齢制限の引き上げ、また、身体障害者別枠採用で腎機能障害者、とりわけ透析患者の採用を要望しました。

当局からは、平成7年11月より基本方針の3%を目標にして障害者雇用に努めている。年齢制限について一般の採用時上限22歳迄を、障害者の場合は28歳未満としている。今は年齢を引き上げる考えはない、との回答でした。

「透析施設間ネットワーク化や

通院の確保など、地震などの災害時における緊急透析治療体制を早急に確立して下さい」との要望には、都の防災計画係りは東京に災害が起きた時、透析医療機関の災害状況など情報集取する任務を担っています。そして各医療機関及び患者からの問い合わせ等に適切な情報を提供しました、医療機器やライフラインの供給については基本的には各区市町村が一時的に対応し、その支援、調整を都が行ないます、と述べました。

●(東京労働局)

透析患者の雇用先の拡充という要望に対して当局からは、平成12年度の職業安定所から就職した人は88人などと報告がありました。また、東腎協側から、実際に職業安定所の紹介で外資系の保険会社に就職した女性の体験を話しました。大変厳しい状況の中での、貴重な報告に担当官からも参考にうなづかれました。

(2) 都議会に対する要請

東腎協では都庁への要請とともに、都議会各会派へ毎年要請を行っています。特に、10月16日には今年度もヒアリングを行う旨連絡



第30回記念全腎協（東京）大会（2001.5.20）

のあった公明党、共産党、民主党には議員と直接面談して、①都立病院改革問題②通院移送サービスの問題③災害対策の3点を主体に、私たちの要望を伝えました。

また、7月には「シルバークラス、マル福など切り捨てられた福祉を取り戻すことを求める要請書」60人分を共産党あてへ送りました。

（3）都立病院公社化、民営化反対運動

東京都は「東京発医療改革」と称し、医療をとりまく環境の変化などから、今後は各医療機関の役割分担、医療機能の連携を推進し、医療供給体制を合理化することを目論んでいます。

そして昨年7月、既存16都立病院について、母子保健院は廃止し、直営は移転統合を含めて墨東、府中、小児総合医療センター、大塚、駒込、広尾、松沢、そして神経の8病院として、豊島病院と老人医療センターを統合して高齢者医療センター併設地域病院として民営化する他、大久保、荏原、多摩老人医療センターの3病院について当面東京都保健医療供給公社へ経営を委託し、将来的には民営化



北部ブロック幹事交流会（2001.6.3）

を検討する、という内容の「都立病院改革会議報告書」を発表しました。

この中でも私たちにとって最大の関心事は大久保病院の公社化、民営化にあります。大久保病院はその創設以来の経緯や、都立病院唯一の腎不全センターが設置されており、東腎協としてこの改革案に賛成することはできません。

東腎協では7月23日、「都立病院改革会議報告書に関する要望」をもって早速東京都衛生局へ「都立病院改革については公社化・民営化はやめ、都の直営を守り充実



都予算要請（2001.6.28）

・発展させる」よう強く要望しました。さらに、10月2日には大久保病院院長と面会、「都の直営を守り腎不全センターの充実、発展を求める要請書」を手交し、民営化はやめ都立病院として存続するよう要請しました。

また、大久保病院存続に関して11月8日には「存続させる会結成準備会」が新宿で開催され、大久保病院職員や住民、患者会等11団体26名が参加しました。東腎協からは3人が出席しました。

その他、都立病院改革会議の傍聴（7月2人参加、東京都区職



第49回全腎協関東ブロック会議（2001.6.30～7.1）

員労働組合の都立病院改革反対集会(8月)での東腎協の立場説明、共產党の懇談会(11月)、都立病院、保健所を守るための「都民要求懇談会」の署名活動にも参加しました。

都議会議長あて東京の保健、衛生、医療の充実を求める連絡会の「東京の保健、衛生、医療の充実を求める請願」(東腎協分95人)、同連絡会の各会派要請行動(8月)、「都立病院の統廃合、民営化を求め、都立病院の充実を求める要請集会」(11月)、「都立大久保病院を存続させる会」(結成総会(11月)などに参加してきました。

3、第21回臓器移植普及推進

全国街頭キャンペーン

10月7日、第21回臓器移植普及推進全国キャンペーンが行われ東腎協でも東京都はじめ各団体の後援、応援をいただきブロック単位に都内4ヶ所に分かれて4万2千枚の意思表示カードを配布しました。

●区中南部は、昨年度の新宿西口

駅前から中央区の数寄屋橋公園に場所を移して会員及びボランティア68人が参加しました。今年初めて宣伝媒体として使った風船も好評で、短時間で6千セットの臓器移植意思表示カードセットを配布しました。特にライオンズクラブからは19人の参加がありました。

●区東部は、上野公園で開催しました。参加者は4つの会場でも一番多く102人が参加しました。特徴としては東京都職員1人、ブルデンシヤル生命保険(株)から21人、ライオンズクラブからは3人、東京肝臓友の会からも4人、ボランティアは6人が参加しました。意思表示カードは7千セットを配布しましたが、風船や着ぐるみが好評でした。

●区北部は、池袋東口駅前に55人が集い意思表示カード4千セットを進行く人々に配布しました。ここにもブルデンシヤル生命保険(株)から17人がボランティアとして活躍していただきました。その他東京肝臓友の会から4人、ライオンズクラブから2人、豊島区社会福祉協議会からも1人が駆けつけてくれました。

●多摩部では昨年と同じ立川駅南

口で総勢87人が集い、意思表示カードセット6千セットを配布しました。配布を午後1時からと1時半の2回に分けて、それぞれ4千セット、30分後に2千セットを配布しました。ここにも東京肝臓友の会から3人、ライオンズクラブから4人が参加しました。

4、「腎臓病を考える都民の集い」の開催

今年で14回目となる腎臓病を考える都民の集い」を2月10日、豊島区民センター文化ホールで開催しました。

今年には主催団体に東京都のほか日本腎臓学会も加わり、また、多くの団体からも後援をいただくなど、ますます社会的な事業へと発展してきました。

今年のテーマには、「ご存知ですか腎臓病のこと」と題して、講師に飯野靖彦先生(日本医大病院・腎臓内科学部長)、篠田俊雄先生(社保中央総合病院・腎臓内科学部長)を迎え腎臓病の保存期と末期腎不全のを中心にお話をしていただきました。

5、第29回総会の開催

東腎協の第29回総会は昨年4月22日、千代田区・総評会館大会議室で開催し、会員など281人が参加しました。

2001年度活動方針案、予算案、役員候補者などが満場一致で承認された後、東京女子医大教授の秋葉隆先生の講演「21世紀腎不全医療の展望—合併症とその予防」で、これからの腎不全医療の方向と、長期透析とともに深刻になつてきている透析合併症の予防などについて学習しました。

6、会員交流会の開催

今年も個人会員を対象とした会員交流会を2月3日、豊島区南大



多摩ブロック講演会 (2001.7.29)

●区中南部

7、ブロック活動

塚の社会教育会館で開催しました。当日はあいにく冷たい雨の降る中、17人の個人会員が参加しました。交流会は糸賀会長のあいさつに始まり、意見交換の時間帯では透析のさまざまな問題について意見交換をしました。

また、災害対策の一環として、阪神大震災時の透析対策ビデオの鑑賞などもあり、充実した時間を過ごすことができました。



第47回幹事会学習交流会 (2001.9.9)

●区北部

昨年9月23日、患者会・幹事、役員合同交流会を世田谷二子玉川の瀬田温泉「山河の湯」で行いました。参加者は16人でした。12時より入浴、日々の活動の疲れを癒しました。その後午後2時から4時まで交流会を行い、会活動の様々なことについて大いに交流を深めました。

昨年6月3日、東腎協事務局及び大塚「北の家族」において勉強会と懇親会を開きました。テーマは①事務局の仕事について②今後は



第47回幹事会 (2001.9.9)

●区東部

の東腎協と患者会のコミュニケーションについて③東腎協担当幹事さんの本来の役目とその重要性について④懇親会で、参加者は26人でした。

今年度2回目の幹事交流会は2月24日、南大塚社会教育会館で、19人が参加し、新年交流会を、また「北の家族」において懇親会を開催しました。参加者全員が一度は発言する機会をもうけ、多くの意見を把握できました。

昨年6月3日、江戸川総合文化



中南部ブロック役員交流会 (2001.9.23)

●多摩部

センターで、透析による合併症対策と東腎協、全腎協の活動の2点をテーマに、学習交流会を開きました。78人が参加しました。また、1月21日には故森田ブロック長の遺志どおり幹事と患者会役員交流新年会を開催し、医療保険制度改革の改正対比表を資料として説明を行い、食事をしながら親睦を深めました。

まず、昨年7月29日、国分寺市勤労福祉会館で杏林大学教授・中林公正先生を招き、「糖尿病性腎

症の原因と対策について」と題する講演会を開きました。「糖尿病」

については東腎協でも前に講演があったことや、透析が糖尿からではない方の興味がないのか参加が42人と少なかつたのが残念でした。その反省も込めて、會員の皆さんにアンケートをお願いし多数のご意見をいただきました。内容は活動への要望や提案、また集会を多摩地区で開催してほしいなど多々ありました。今後、新年度の参考にして活動に役立たせたいと思います。後半は、バス旅行や食事会などいろいろ検討しましたが、決定せず今年は中止としました。

8、第4回地域腎友会交流会の開催

昨年8月5日、豊島区の南大塚社会教育会館で通算4回目の地域腎友会交流会を開催しました。この会には地域腎友会の役員はもちろん、これから地域腎友会を立ち上げようとする人など42人が出席しました。

第1部では、全腎協の結成30周年を記念して作成された「30年の歩みととまらず」ビデオを鑑賞

し、全腎協の足跡と現状を学習しました。

また、昨年3月4日に設立された町田市腎友会について、その活動の過程、総会の模様、役員紹介の他、今後の活動予定、課題についての説明がありました。

第2部では現在活動中の江東、江戸川、荒川、板橋、練馬、町田の6つの地域腎友会から、それぞれの活動状況やこれからの課題などについて交流を深めました。

地域腎友会は現在、東腎協の組織外となっています。しかし、それでは結成が難しいし、運営上もぜひ東腎協の組織に組み入れてほしいとの要求もありました。そこで、常任幹事会の議題として検討を進めてきました。しかし、東腎協の組織に組み込むとなると、会費の問題や病院患者会との関係などもあって、現在は地域腎友会として活動の実績を積むことが重要で、今の段階では東腎協としては地域腎友会のネットワークのキーとして交流促進を図ることにしました。

9、学習交流会について

今年度の学習交流会は例年どおり、昨年9月9日三田の障害者福祉会館で開催した第47回幹事会の閉会後に行いました。

内容は、来年在診療報酬改訂の年にあたることから、透析医療はどうなるのかその辺の情報も含めて、透析医会の会長を勤める山崎親雄先生（増子記念病院）に講演をお願いしました。

山崎先生は、「透析医療をとりまく社会的問題」と題する講演の中で透析患者の状況、透析医療の質、医療費問題、透析医療事故、新しい透析技術、災害や介護問題にも触れました。最後にこれからの透析医療機関にとつての問題におよび、市場原理に基づいた競争をさせることで、確かに医療費は下がるかもしれないが、医療の質の面からどうなのかと危惧している」と結びました。

この講演内容は要約を会報「東腎協」No.141に掲載するとともに、全文を2月に幹事宛送付しました。

10、委員会活動について

●教宣委員会は、4月には東京医科歯科大学の医学生に対し東腎協から6名が授業に参加し透析の体験談を話しました。7月には「入会のしおり」2千部を作成しました。

また、学習交流会や「腎臓病を考える都民の集い」のテーマの決定や臓器移植キャンペーンの実施計画などを検討しました。地域腎友会の位置づけを明確にして欲しいとの声が上がりが、その対応を協議しました。

2002年度は東腎協設立30周年に当るので4月の総会、11月の記念祝賀パーティ。記念ビデオ制作など各委員会と共同で準備に入っています。

●編集委員会は機関誌「東腎協」No.137「第29回総会議案集」を3月に、No.138を5月に、No.139を7月にそれぞれ発行しました。10月にはNo.140を、年が明けて1月にはNo.141をそれぞれ定期発行しました。また、10月はじめには、「第13回腎臓病を考える都民の集い報告集」を発行し、内外に腎臓病の知識を普及しました。

また、青年部と一体になって、

東腎協独自のホームページを立ち上げ、管理をはじめました。一部県腎協ともリンクをして、インターネット時代に即応する体制をとるよう努力しています

また、2002年度の東腎協30周年にそなえ、30周年記念誌編集委員会を組織し、10月から2月までに3回の委員会を開催しました。●組織対策委員会は、(旧会員拡大交流委員会)では、これまで4回の委員会を開き未加入クリニック対策、加入クリニックの患者会交流会、個人会員のグループ化などについて話し合ってきました。



都立大久保病院要請 (2001.10.2)

しかし、長期透析の合併症などで実際の未組織病院訪問などの活動ができていないのが現状です。そんな中でも今期に入ってから、高尾もみじ会(会員数28人)、高山クリニック友の会(会員数11人)が新たに東腎協に加盟し、そして9月からは井口腎友会(会員数83人)が新たに私たちの力強い仲間として東腎協に加入しました。一方ではこれまで長く会長として会をリードしてきた方が亡くな



臓器移植推進キャンペーン北部ブロック (2001.10.7)

り、会の運営ができなくなってきたところや、そこまでは行かなくても、役員の手がなくて、東腎協に相談される会ももうけられず。担当役員は、今年度は最大の外訪活動を展開し、他県に負けないよう会員拡大に頑張っています。

●災害対策推進委員会は、6月23日、24日に熱海で開かれた関東ブロック災害対策推進委員会に出席し、引き続き関東1都8県の広域災害対策について話し合ってきました。



臓器移植推進キャンペーン東部ブロック上野 (2001.10.7)

都衛生局作成の「災害時における透析医療活動マニュアル」改訂版ができあがりました。また、7月15日には新しい委員も交えて、阪神淡路大震災のビデオを見て改めて災害の恐ろしさ、対策の大切さを学習しました。好評の東腎協の「緊急時透析患者手帳」が残り少なくなり、改訂版の編集をはじめました。また、6月3日には練馬地域の腎友会などが所属する練馬区難病連合会の主催で災害訓練が行われるなど地域での取り組みも報告されました。



臓器移植推進キャンペーン中南部ブロック (2001.10.7)

東腎協独自のホームページを立ち上げ、管理をはじめました。一部県腎協ともリンクをして、インターネット時代に即応する体制をとるよう努力しています

また、2002年度の東腎協30周年にそなえ、30周年記念誌編集委員会を組織し、10月から2月までに3回の委員会を開催しました。●組織対策委員会は、(旧会員拡大交流委員会)では、これまで4回の委員会を開き未加入クリニック対策、加入クリニックの患者会交流会、個人会員のグループ化などについて話し合ってきました。



都立大久保病院要請 (2001.10.2)

しかし、長期透析の合併症などで実際の未組織病院訪問などの活動ができていないのが現状です。そんな中でも今期に入ってから、高尾もみじ会(会員数28人)、高山クリニック友の会(会員数11人)が新たに東腎協に加盟し、そして9月からは井口腎友会(会員数83人)が新たに私たちの力強い仲間として東腎協に加入しました。一方ではこれまで長く会長として会をリードしてきた方が亡くな



臓器移植推進キャンペーン北部ブロック (2001.10.7)

り、会の運営ができなくなってきたところや、そこまでは行かなくても、役員の手がなくて、東腎協に相談される会ももうけられず。担当役員は、今年度は最大の外訪活動を展開し、他県に負けないよう会員拡大に頑張っています。

●災害対策推進委員会は、6月23日、24日に熱海で開かれた関東ブロック災害対策推進委員会に出席し、引き続き関東1都8県の広域災害対策について話し合ってきました。



臓器移植推進キャンペーン東部ブロック上野 (2001.10.7)

都衛生局作成の「災害時における透析医療活動マニュアル」改訂版ができあがりました。また、7月15日には新しい委員も交えて、阪神淡路大震災のビデオを見て改めて災害の恐ろしさ、対策の大切さを学習しました。好評の東腎協の「緊急時透析患者手帳」が残り少なくなり、改訂版の編集をはじめました。また、6月3日には練馬地域の腎友会などが所属する練馬区難病連合会の主催で災害訓練が行われるなど地域での取り組みも報告されました。



臓器移植推進キャンペーン中南部ブロック (2001.10.7)



臓器移植推進キャンペーン多摩ブロック (2001.10.7)



都議会各派ヒアリング (2001.10.16)



第50回全腎協関東ブロック会議さいたま市 (2001.12.8~9)



東部ブロック交流会 (2002.1.20)

また、都立病院改革の一環として、都立大久保病院の公社化、将来の民営化の計画に対し、衛生局長あて、直営存続の要望書を提出した記事も掲載しました。新年のNo.141では第47回幹事会の学習交流会での講演「透析医療をとりまく問題」の抜粋記録を掲載し、医療保険制度改革の動きに関して透析医療費問題に警鐘を鳴らし団結を訴えました。また、長年東腎協活動に尽力してきた森田副会長の追悼記事を掲載しました。

14、ホームページの充実

パソコンの普及によりインターネット接続や電子メールの活用は情報の収集や提供などにいまや大きな力となっています。こうした社会のニーズにこたえるため東腎協では、(財)日本障害者リハビリテーションセンターの運営するノーマネット(障害者情報ネットワーク)上に情報提供施設としてのホームページの開設を試みました。

その後、維持管理できる人がいない状態が続きましたが、2000年から個人会員のインターネットのホームページに好意で間借りしている状態が続いていました。今年の4月からは青年部で作成した東腎協のホームページが試験公開されてきましたが、8月1日にこれまで東腎協のホームページを運営してきた元常任幹事の下島正資氏から正式にバトンタッチしました。今後のホームページの更新などのために青年部のパソコン教室にも力を入れています。

15、全腎協活動への参加

全腎協は、借主側の都合で目白紫山会ビルから昨年9月25日、新しい事務所に移転、業務を行っています。新事務所はJ.R果鴨駅から徒歩5分の場所にあります。〒170-0002

豊島区果鴨1-20-9
果鴨ファーストビル3階

(1) 30周年記念大会の開催

全腎協の30周年の記念すべき大会は昨年5月20日、江東区のホテルイースト21東京で開催され、東腎協は全腎協とともに主催団体として大会を運営しました。

大会では東腎協の糸賀会長が歓迎のあいさつを述べ、また、締めくくりに小野常任幹事が大会決議を読み上げました。大会の運営については、事前に全腎協と2回の実行委員会を開いて万全を期しました。当日は東腎協の役員・会員は主にブロック単位に、場外案内、会場受付、湯茶・水、場内整理・案内、記録・写真・救護、来賓接待、図書販売、弁当配布などに分かれ精一杯奮闘しました。全国からの参加者は1047人、東腎協からは317人が参加し、大会は成功裏に無事終了しました。

(2) 関東ブロック会議

6月30日(土)～7月1日(日)

茨城県・大洗で第49回関東ブロック会議茨城大会が開かれ、東腎協から6人が参加しました。初日は全腎協の活動報告と各県の活動報告がありました。東京からは全腎協の法人化5周年のメリットと紫山会ビルの買取について質問し

ました。2日目は群馬県から地域腎友会関連の活動報告、長野県から献腎移植活動についての報告、東京都からは都衛生局アクションプランについて説明しました。

12月8日～9日には第50回会議が埼玉県・さいたま市で開催、全腎協報告では事務局の移転問題、透析患者実態調査の件、透析医療費の件など報告の後、全腎協の藤原理事より医療制度改革の説明がありました。

議事では神奈川からはEPO訴訟支援活動の中間報告、埼玉からは障害者医療費助成後退阻止運動の総括があり、2日目は千葉県からの透析患者の緊急時の対応、長野県からの腎登録活動について、東京からは都立病院改革で大久保病院の腎不全センターが危機に瀕していることを取り上げました。

(3) 関東ブロック 災害対策推進委員会

今年で9回目となる会議が6月

23日(土)、静岡県熱海市において開かれ、群馬県を除く1都7県から13人が出席しました。東京からは役員2人が出席しました。会議では各県の活動報告、今年度緊

急連絡網の確認、N.T.T災害用伝言ダイヤル1711の活用を徹底、委員会の今後の活動などについて話し合いました。

(4) 第2回通院介護 支援事業交流会

今年で2回目となる通院介護支援事業交流会が8月25日と26日の2日間にわたって品川プリンスホテルで開催されました。今回は全腎協常務理事の小林孟史氏の「報告と問題提起」、宇都宮大学講師の高橋万由美氏から「移送サービスを必要とする人のために」、東京ハندیキャブ連絡会事務局の伊藤正章氏から「事故防止と責任問題」、東京ボランティアセンター主事・藤原孝公氏から「利用者・ボランティアの安心のために」などの話を聞き、それぞれ分科会に分かれて討議をすすめました。東腎協関係からは7人が参加しました。

(5) 事務局員研修会

今年も主に各県の事務局員を対象とした全腎協の相談員研修会が7月7日～8日にかけて、五反田のホテルで開催されました。今回は3つの県事務局から、「年金がも

らえると聞いたけど」、「えっ、自己負担が生じるの」、「もう通院介護に限界です」と題する問題提起を受けて、グループ討議を行いました。

2日目には東腎協の学習交流会でも講演をいただいた山崎親雄先生(増子記念病院)から「どうなるこれからの透析医療」医療費保障を中心に」と題する講演を聴きました。講演ではインフォームドコンセント、肝炎感染問題、透析液の清浄化問題、災害対策、事故対策マニュアル、医療経済など患者の関心事について貴重な話がありました。そして最後に、透析医療費が厳しくなって、医療の質が落ちるようになっていないために、医会も、患者会もいっしょになって運動しななければならぬ」と結びました。

(6) 編移送

全腎協も加盟している臓器移植推進連絡会(臓移送)は、昨年5月5日「子供の日」に15歳未満の子供の脳死移植実現を訴え、銀座でパレードを行いました。また、教習屋橋公園では、臓器移植法の改正を訴え国会請願署名募金協力の

を訴えました。東腎協からは役員6人が参加しました。

(7) 全難連

全国難病団体連絡協議会(全難連)の2001年度総会が7月15日、新宿の日本青年館で開かれ、東腎協からも参加しました。

16、事務局体制強化と財政対策

最近、東腎協役員も高齢化や透析の長期化による合併症などにより活動が制限されたり森田副会長

のように亡くなられる方も多くなってきました。森田副会長は10月16日に急逝され、週に2、3回程度会報の発送や各種資料の発送などを引き受けてくれ、事務局の大きな力となっていたアイデアだったので、今は大きな穴があいてしまったという感があります。

そんな中で、今年も事務局半専従3人体制は変わらず、曜日によっては2人体制を余儀なくされています。都の都立病院の統廃合、公社化・民営化など、また、国の透析医療費の引き下げなど、私たちを巡る状況はほとんどと身辺に

影響を及ぼすようになってきました。こうした中では、情報の連絡、一つとっても迅速な対応が必要で、それに対応できる事務局体制の整備が必要です。

一方で今年度から田中事務局長が週3日出勤し、渉外関係や臓器移植キャンペーン、腎臓病を考える都民の集いなどの実施面で活躍し、その分事務局体制の強化という面では一歩進んだものと評価できます。

財政的には昨年から課題となっている半専従役員の採用が予算措置はとられたものの適当な人材がなく、のびのびになっています。

また、今年度東腎協の会計監査より会計の明瞭化のために一般会計と特別会計を統合したほうがいいのではないかと指摘を受けました。事務局でも種々検討に植え来年度からの予算編成に生かして行きたいと考えています。

●事務所賃料の供託について

現在東腎協事務局のある一橋ゼミナール新本ビルは1998年7月9日付けで旧事務所(豊島区日白薬山会ビル)から移転し、満3年9カ月を過ぎました。

そんな中で9月26日突然、東京

地方裁判所から富士銀行を債権者とする債権差押命令が届き、貸し主側から何の事前説明もなかったため役員一同何がなんだかわからず、急遽現在の西山社長に説明を求めました。11月分12月分の家賃はとりあえず裁判所の意向により富士銀行に支払いました。

その後11月26日には三井住友銀行を債権者とする債権差押命令が届きました。以後の家賃は東京法務局に供託することになりました。供託の手続きはなれなりましたらにとつて重荷で結局4回目ようやく書類が整い供託をすることができました。

12月分から4カ月分の家賃と遅延損害金を含めて95万9783円を支払いました。なお物件は現在任意売却と競売の両面から手続きが行われており、8月ころには結論が出るものと見られています。

17、他団体との連携

(1) 東難連

東難連は東腎協を含む東京の13の難病団体で組織され、主に都庁や都議会への要請活動と東京都か



第14回腎臓病を考える都民の集い (2002.2.10)



診察報酬改善反対座込み (2002.2.20)

らの委託事業である、無料医療相談会や電話相談を行っています。会長には東腎協の北爪副会長が就いています。

ここ数年、東京都からの委託事業費が削減されるなど、東難連は財政的な面から見直しを迫られ、この1年間、会のあり方を検討してきました。その結果、8月19日に第1回目の総会が開かれ、平成12年度の活動報告、収支報告が承認され、平成13年度の活動方針案、収支予算案、規約改正案、新役員案がそれぞれ採択されました。総会終了後は東京都衛生局特殊疾病対策課の中西参事から「これからの難病対策の方向性について」と題する講演がありました。

また、分担金について、これまでは各会ともに1万円の負担でしたが、今後は会員数に応じた分担金が課せられることになり、東腎協は14万円を昨年9月10日に支払いました。

(2) 東京・無年金障害者
をなくす会

重度障害者で障害基礎年金を受けられない「無年金障害者」は全国に10万人以上と言われています。

これまで、そのうち国民年金未加入の学生時代の事故や病気が理由の「学生無年金障害者」38人が障害基礎年金の支給を求めて行ってきた再審査請求が昨年4月に棄却されています。

そのため、このうち29人が社会保険庁の不支給決定の取り消しと損害賠償を求めて7月中に9つの地裁に提訴しました。裁判は9月5日、東京地裁で第1回公判が始まり、11月14日第2回公判、12月19日第3回公判、1月22日の第4回公判と進み、被告側から反論書面の提出があり、双方の準備書面がそろい論争に入る準備が整いました。

また、7月12日、1月22日に坂口厚生労働大臣に「無年金障害者問題の早期解決を求める申し入れ書」を提出、坂口厚生労働相は「大きな問題である。今年中にも結論を出したい」と述べています。

(3) 清瀬園施設オンブズマンの任務終了

2000年8月から東腎協に委託嘱されていた東京都清瀬園サービス点検調整委員会（オンブズマン）は、平成12-13年度（第2期）

報告書を提出し、昨年7月31日を

もって任務を終了しました。

三、おわりに

この1年間はアメリカにおける自爆テロとそれに続くテロ封じ戦争、国内では慢性的な不況の中等の狂牛病問題と、食品表示のごまかしや政治家による口利き問題など、大きな社会不安を呼び起こす事件や政治不信を助長する不正がはびこっています。

昨年のこの項でも書きましたが、透析医療費に関する私たちの「危機感」は、いよいよ現実のものとなってしまいました。食事加算の廃止は、透析施設の給食に混乱をもたらしめています。

透析時の給食は治療食ということ以外に、透析患者のもっとも必要な食事管理の見本ともなるもので、もしも給食が廃止される施設があれば、その影響は非常に大きいと思います。

また、慢性透析患者外来医学管理科やダイヤライザーの購入価格の引下げ、さらに透析の時間制の廃止などは、医療の質に大いに懸念があります。特に透析時間は現

在、主流となっている4時間透析に比べ5時間透析のほうが患者の生命予後に与える影響がよい、というのが学会の通説です。この一つをとっても国が透析患者に示した回答は非常に厳しいものがあります。

いまこそ私たちは、もろもろの悪条件を克服して、患者同士の連帯を強め、諸条件の向上を目指して運動を強めていくことが必要です。

二〇〇一年度主な活動記録

2001年3月

4 町田市腎友会設立総会出席

(2人)

青年部パソコン勉強会(5

人)

全腎協大会第1回実行委員会

(20人)

三役会議開催(13人)

中目黒クリニック再建の件で

訪問懇談(1人)

10 都民要求懇談会出席(2人)

11 第250回常任幹事会開催

(28人)

13 編集委員会開催(7人)

13 会員拡大小作クリニック、高

尾もみじ会訪問(2人)

14 会計監査(2人)

15 『東腎協』No.137編集(3人)

18 青年部ホームページ学習会

(9人)

22 第30回国会請願行動(13人)

25 第46回幹事会開催(11人)

30 都・衛生局訪問(4人)

2001年4月

3 都庁各局、都議会各派へ総会

案内持参(2人)

4 東腎協第29回総会案内状を透

析医療機関あて発送(3人)

5 声の会報「ぜんじんきょう」

No.184発送(2人)

8 全腎協大会準備会及び第251回

常任幹事会開催(33人)

9 都庁・都議会各党会派へ総会

案内状持参(1人)

11 EPO第7回公判出席

(3人)

12 故山田常任幹事通夜参列

(13人)

13 東京医科大学大学生講義

(6人)

故川島桂輔元常任幹事の通夜

に参列(3人)

障都連総会出席(2人)

あけぼの友の会総会出席

17 『東腎協』No.138編集

故今井常任幹事通夜に参列

22 東腎協第29回総会(28人)

(18人)

2001年5月

2 機関誌「ぜんじんきょう」No

185、「要介護透析患者の介護

保険利用実態調査報告書」

「高齢透析患者のためのガイ

ドブック」発送作業(3人)

5 臓移連「春の銀座パレード」

参加(6人)

6 第252回常任幹事会開催(34

人)

区中南部常任幹事打合せ

区北部常任幹事打合せ

多摩部常任幹事打合せ

7 機関誌「ぜんじんきょう」No

186発送(3人)

8 都職労「東京の保健・衛生・

医療の充実を求める連絡会」

発足総会出席(3人)

10 ホームページメーリングリス

ト開示

13 第2回全腎協大会実行委員会

14 出席(35人)

東京都障害者団体連絡協議会

出席(1人)

15 共産党・池田梅夫都議(豊島

区選出)、東ひろたか(江東

区選出)と東京都の福祉制度

を復活させる運動について懇

談(2人)

17 東京都福祉局障害福祉部長に

あいさつ(4人)

18 臓移連「臓器の移植に関す

る」法律改正を求める請願署

名発送(3人)

19 全腎協大会資料袋詰(15人)

全腎協交流会道案内(15人)

全腎協総会出席(4人)

全腎協交流会出席(28人)

20 全腎協結成30周年 法人化5

周年記念大会開催(31人)

臓移連「臓器の移植に関す

る」法律改正を求める請願署

名患者会宛発送(3人)

21 全腎協大会 都庁お礼の挨拶

回り(3人)

2001年6月

2 会員拡大・交流委員会(7

人)

3 区東部学習交流会(78人)

区北部幹事交流会(26人)

- 2001年7月
- 10 EPO訴訟を支援する会第2回総会(1人)
 - 4 EPO訴訟シンポジウム「明日の医療を考える」出席(6人)
 - 4 JPC国会請願(4人)
 - 障都連若宮会長、市橋事務局長、宮内氏来局対応(3人)
 - 8 2001年度常任幹事連絡網作成
 - 10 第23常任幹事会開催(27人)
 - 教宣委員会(5人)
 - 編集委員会(8人)
 - 14 都庁各局へ2002年度予算要望書持参(1人)
 - 各幹事宛、全腎協災害見舞金制度の案内等発送(4人)
 - 16 松井練馬区腎友あけぼの会会長松井氏、小野崎氏来局
 - 17 全腎協理事会出席
 - 17 青年部ボウリング大会(50人)
 - 23、24 第9回関東ブロック災害対策推進委員会(2人)
 - 28 東京都各局へ2002年度東京都予算要請(11人)
 - 30、7/1 関東ブロック会議・茨城大会出席(6人)
 - 5 学生障害年金不支給問題東京地方裁判所に提訴(1人)
 - 6 会報「ぜんじんきょう」No.186 発送作業(4人)
 - 7、8 全腎協相談員研修会(4人)
 - 8 第24回常任幹事会開催(26人)
 - 8 区中南部常任幹事会(7人)
 - 渉外担当打合せ(6人)
 - 区東部常任幹事会(6人)
 - 区北部常任幹事会(6人)
 - 11 東京都障害者福祉会館後期定期利用申込
 - 11 EPO訴訟第9回公判(3人)
 - 12 障害年金改正をすすめる会、東京・無年金障害者なくす会連名の無年金障害者問題の早期解決を求める申し入れ(坂口厚生労働大臣宛)提出(1人)
 - 13 都立病院改革会議本会議傍聴(2人)
 - 14 都職労病院支部大久保病院分会昼食交流会で講演(1人)
 - 15 災害対策推進委員会(5人)
 - 30周年委員会(13人)
 - 全難連総会出席(1人)
 - 小作クリニック、青梅腎クリニック訪問(1人)
 - 17 新小岩クリニック船堀訪問
 - 18 「シルバース、マル福など、切りすてられた福祉をもとにもどすことを求める要請書」60人分を共産党都議会議員団事務所宛発送(2人)
 - 21 東京・無年金障害者なくす会第4回総会出席(4人)
 - 22 「東腎協」No.140「介護保険体験者は語る」座談会(7人)
 - 井口腎友会設立総会出席(3人)
 - 23 都・衛生局都立病院改革に関する要請行動(5人)
 - 26 東京都障害者団体連絡協議会出席(1人)
 - 29 ホームページ正式アップ作業(5人)
 - 30 多摩部講演会(42人)
 - 糸賀会長、心臓発作のため順天堂大学付属医院へ入院
 - 2001年8月
 - 3 会計監査・梅原伸之氏(虎の門・高津会)新任挨拶(2人)
 - 5 編集委員会(9人)
 - 30周年常任幹事打合せ(5人)
 - 地域腎友会交流会(42人)
 - 障害年金改正をすすめる会総会出席(2人)
 - 7 声の会報No.186ダビング・発送
 - 11 東京都障害者福祉会館調整会議出席(1人)
 - 組織対策委員会(3人)
 - 12 青年部講演打合せ(2人)
 - 14 都立病院改革の件で都職労病院支部で講演
 - 19 東難連第1回総会出席(13人)
 - 25、26 通院介護支援事業交流会出席(3人)
 - 2001年9月
 - 2 第255回常任幹事会開催(28人)
 - 3 「東京の保健・衛生・医療の充実を求める請願」団体署名、発送(2人)
 - 5 「学生無年金障害者」第1回公判傍聴(1人)
 - 9 第47回幹事会及び学習交流会(126人)
 - 10 機関紙「ぜんじんきょう」No.187発送作業(4人)
 - 11 衛生局3支部予算人員要求討議集会出席(3人)
 - 12 EPO第10回公判出席(2人)
 - 14 子どもの臓器移植をすすめる

署名2万5333人分全腎協

(発送)(2人)

キャンベーンブロック長会議

(10人)

無年金第1回役員・事務局合同会議(1人)

青年部2001年度第2回交流会・ティアラ江東(74人)

中南部ブロック幹事・役員合同交流会(16人)

「一橋ゼミナル新本社ビル」に関する「債権差押命令」届く

一橋ゼミナル債権差押命令にもとづく陳述書を(株)富士銀行及び東京地裁あて送付

全腎協より理事選考で山梨の遠藤氏に決まった旨連絡があった

編集委員会(5人)

第25回常任幹事会開催(27人)

2001年10月

都立大久保病院池田院長に面会要請(6人)

臓器移植キャンベーン 上野公園、数寄屋橋公園、池袋駅東口、立川で実施(312人)

森田会長代行倒れるとの一報

あり役員に連絡

第2回30周年記念事業企画委員会開催(9人)

都議会各政党予算ヒアリング(4人)

臓移連「国会請願要請行動」参加(1人)

森田副会長逝去の報あり

EPO訴訟第11回口頭弁論傍聴(2人)

「東腎協」No140責了(3人)

故森田廣明副会長の通夜に参列(14人)

故森田廣明副会長の告別式に参列(5人)

20・21 全腎協総会(1人)

30周年記念誌編集委員会(6人)

一橋ゼミナルオーナー西山氏と差押えの件で話し合い(3人)

26 東京労働局要請(5人)

28・29 大島腎友会総会出席(2人)

2001年11月

3・4 全腎協青年交流会in広島(5人)

6 声の会報「ぜんじんきょう」No187ダビング発送(2人)

8 故埼玉友会長・全腎協副会長長谷川氏へ弔電

都立大久保病院を存続させる会」結成準備会(3人)

10・11 湯河原・ホテル観山で第257回常任幹事会および懇親会(25人)

14 学生無年金障害者裁判第2回公判傍聴(1人)

15 東京の保健・衛生・医療の充実を求める連絡会に参加

16 会報「ぜんじんきょう」No188発送(3人)

17 共産党主催・都立病院統廃合問題についての懇談会出席(2人)

18 編集委員会(8人)

19 「都立大久保病院」を存続させる会」結成総会(2人)

22 体重計、血圧計、耳温計あっせん案内状発送(3人)

都立大久保病院を直営で存続させるための陳情書新宿区議会事務局へ提出(1人)

24 組織対策委員会開催(5人)

24・25 全腎協理事会出席(2人)

25 青年部料理講習会(25人)

編集、私たちの患者会、深川橋腎友会幹事相馬さん訪問

2001年12月

1 第3回30周年記念事業企画委員会&三役会議(10人)

4 小作クリニック会長松山清氏(青梅市会議員)と結成総会の件で打合せ(2人)

8 小作クリニック設立総会出席(2人)

8・9 第50回関東ブロック会議・埼玉出席(9人)

12 東京・無年金障害者をなくす会役員会

一橋ゼミナル新本社ビルの債権差押命令にもとづく家賃供託について、東京法務局で説明を受ける(2人)

14 一橋ゼミナル新本社ビルの債権差押命令にもとづく陳述書を東京地方裁判所並びに三井住友銀行に発送

16 第28回常任幹事会開催(20人)

区北部ブロック常任幹事会

寄付金受領のため、メイソンコンサルタントグループ株式

27

25

24

24

24

24

24

24

24

24

24

24

24

24

24

24

24

19 会社訪問(2人)

EPO訴訟第12回公判(2人)

学生無年金障害者訴訟第3回公判

20 福祉局移送サービスについて

の面談(5人)

厚労省陳情(介護タクシー、まるめ反対、他)

2002年1月

6 30周年記念誌編集委員会(9人)

三役会議(8人)

9 「腎臓病を考える都民の集い」ポスターを病院・保健所へ発送(2人)

一橋ゼミナールの家賃供託の件で東京法務局訪問(2人)

16 13 機関誌「ぜんじんきょう」No.180郵便局持ち込発送(3人)

NPO法人神奈川県腎友会より「都立大久保病院を直営で存続させるための陳情」15人分受取

都立大久保病院を存続させ会新年会(2人)

17 東京都心身障害者福祉センター地域支援課上部恵美子さん

支援事業の件で末局「障害児

・者の医療・福祉・教育の発展と知事への対話集会を求め

る要請書」提出行動

19 「都民の集い」シンポジウム打合せ(4人)

20 東部ブロック幹事・患者会役員交流会(20人)

22 H.P.岐腎協リンク作業(2人)

東京地方裁判所執行官江夏隆仁さん来局

学生無年金障害者裁判第4回公判及び国会議員要請

23 一橋ゼミナール家賃供託の件で東京法務局訪問(2人)

24 東京都福祉局支援費制度説明会对東京都障害者団体連絡協議会(1人)

27 30周年記念ビデオ制作会議(6人)

29 青年部新年会(34人)

国会請願署名全腎協分都庁職

28 社会保険支部より6,072人分持参

「腎臓病を考える都民の集い」電話受け付け

30 第47回幹事会学習交流会山崎先生講演記録作成

2002年2月

1 中医協委員宛はがき要請連動案内状を幹事宛発送(2人)

3 個人会員交流会開催(30人)

4 中医協委員宛要望書発送

01年度活動報告作成

1月分会計報告作成

都立大久保病院を存続させるための署名簿336枚集計

6 中医協要請(1人)

国会請願署名整理(1人)

7 全腎協からの指示で厚労課長と中医協委員長に抗議電報打電(1人)

都民の集い司会打合せ(3人)

立川市長面会資料準備(1人)

8 法務局へ書類提出(2人)

9、10 全腎協理事會

10 「腎臓病を考える都民の集い」開催

17 第260回常任幹事会開催(26人)

区北部役員会打合せ(4人)

18 教宣打合せ(4人)

国会請願署名簿の整理(2人)

東難連運営委員推薦状(推薦者名①田中助成②多羅尾庸子)発送

20 中医協座り込み参加(22人)

EPO裁判傍聴(2人)

21 幹事宛、健保・診療報酬改悪反対ニュース、とうじんきょうニュース、EPO訴訟ニュース発送(3人)

24 北部ブロック幹事交流会

25 2001年度決算作業(1人)

27 2001年度決算作業(1人)

2001年度特別会計決算報告書

自2001年3月1日～至2002年2月28日

単位：円

	項目	金額	内訳	備考
収入の部	前期繰越	20,318,555		
	寄付金	530,000		MCG、東京コンベンション、日本腎臓財団
	緊急手帳頒布代金	4,000		
	「ガイドブック」販売代金	324,600		「はじめて」、「高齢者」、「障害年金」
	全腎協30周年ビデオ売上金	15,000		
	全腎協実態調査送料	28,575		
	都民の集い	170,000		
	寄付金		80,000	日本腎臓財団、久里千春様、ライオンズ
	寄付金(講師謝礼)		90,000	4人分
	EPO支援金	33,930		
	合計	21,424,660		
支出の部	1. 「ガイドブック」購入費	212,500		全腎協へ支払い
	2. 全腎協30周年ビデオ購入費	13,200		全腎協へ支払い
	3. EPO支援金	32,930		EPO訴訟を支援する会へ支払い
	4. 入会のしおり印刷代	105,000		2,000部 トータルプリント
	5. 会員証印刷代	216,300		2,000部 トータルプリント
	6. 全腎協実態調査送料	26,895		
	7. 30周年事業企画委員会	13,450		
	8. 国会請願	1,347,345		
	募金振込み手数料		15,140	
	2000年度上納金		1,224,000	
	署名用紙発送代		108,205	
	9. 臓器移植キャンペーン	743,252		
	道路使用許可申請代		6,000	
	意思表示カード入りティッシュ		194,370	単価9.30×20,900ヶ
	カードセット料		68,700	単価3×22,900ヶ
	上野会場設営費		62,500	テント、看板、机、イス他
	のぼり制作費		27,000	4枚、ポール
	当日運搬料		20,000	単価5000×4
	宅急便(立川)		17,512	
	消費税		18,628	
	参加費補助及び役員食事代		274,000	1,000×274人、
	風船購入費		46,000	風船、空気入れ、ヘルムガス、スティック
	雑費		8,542	ごみ袋、
	10. 腎臓病を考える都民の集い	1,284,069		
	会場費、		119,350	賃料、看板代、盛花
	ポスター、チラシ印刷代		241,500	ポスター700部、チラシ5000部
	ポスター、チラシ発送代		59,840	
講師謝礼		140,000	講師2人、相談医2人、体験発表2人	
交通費、役員・講師弁当代		69,597	弁当40食	
報告集の発行		645,195	8,600部印刷代、発送代	
雑費		8,587	写真代、のし袋	
	合計	3,994,941		
	次期繰越	17,429,719		

単位：円

度決算	内 訳	達成率/執行率	備 考
		99.3%	期末7,061人
		158.3%	扶桑薬品、鶴田クリニック他
		178.5%	広告代、印刷代、利子
		101.2%	
		100.0%	
		101.1%	
		92.8%	
1,492,036			総会会場費、議案書、弁当代、講師謝礼他
909,831			幹事会・常任幹事会交通費、会場費
718,816			大会、関B会議、災害対策他
174,241			三役会議・各委員会日当・交通費
		42.3%	各ブロック交流会費、会員交流会、学習交流会
			青年部交流会、全腎協・関B青年交流会
		95.5%	
2,319,765			機関誌印刷代
385,475			編集委員会、取材費、編集委員日当交通費
732,905			会報『東腎協』、『ぜんじんきょう』発送費
		62.3%	印刷用紙・材料費、コピー代、封筒、名刺、年賀状他
		45.7%	交通費、日当、食事代
		96.5%	
3,667,785			事務所賃貸料（4か月分は供託）
306,193			電気・ガス・水道料金
1,109,793			切手代、はがき、電話代、メール便など
482,480			印刷機リース代、ソーター他
185,020			事務用消耗品
67,972			都政新報、新日本法規他
		96.6%	
6,285,000			事務局長、事務局次長、事務局員給料・特別手当
419,000			事務局長、事務局次長、事務局員
1,839,155			アルバイト日当、交通費
224,260			事務局3人分
		99.4%	
12,717,900			期末清算 上期7,070人 下期7,061人
140,000			分担金
17,120			分担金
20,000			
		139.0%	
		91.3%	
		100.0%	
		91.4%	

2001年度決算報告書
(2001. 3. 1~2002. 2. 28)

科 目	2000年度予算		2001年度予算		2001年
	予算額	内 訳	予算額	内 訳	決算額
収入の部					
会費	38,340,000		38,340,000		38,067,250
寄付金	500,000		200,000		316,500
雑収入	840,000		800,000		1,427,821
小計	39,680,000		39,340,000		39,811,571
前期繰越	1,758,263		3,800,036		3,800,036
特別会計から繰入	0				0
合計	41,438,263		43,140,036		43,611,607
支出の部					
会議費小計	2,800,000		3,550,000		3,294,924
総会費		1,400,000		1,700,000	
役員会費		550,000		700,000	
全腎協関係費		600,000		900,000	
その他会議費		250,000		250,000	
交流会費	1,050,000		1,050,000		444,454
青年部活動費	300,000		300,000		299,745
会報費小計	4,000,000		3,600,000		3,438,145
印刷費		3,150,000		2,500,000	
編集費		150,000		400,000	
発送費		700,000		700,000	
その他印刷費	1,000,000		1,000,000		622,988
役員行動費	2,100,000		3,000,000		1,372,407
事務局費小計	6,030,212		6,030,212		5,819,243
事務所管理費		3,460,212		3,460,212	
光熱費		300,000		300,000	
通信費		1,400,000		1,400,000	
備品費		520,000		520,000	
事務用品費		200,000		200,000	
新聞図書費		150,000		150,000	
人件費小計	8,894,000		9,071,710		8,767,415
給料		7,020,000		6,285,000	
退職積立金		468,000		419,000	
アルバイト料		1,026,000		2,139,350	
通勤交通費		380,000		228,360	
諸会費小計	12,805,000		12,968,256		12,895,020
全腎協		12,780,000		12,780,000	
東難連		10,000		142,000	
障定協		15,000		16,256	
その他の諸会費				30,000	
雑費	209,051		169,858		236,161
合計	39,188,263		40,740,036		37,190,502
予備費	2,250,000		400,000		400,000
総合計	41,438,263		41,140,036		37,590,502
次期へ繰越					6,021,105

貸借対照表

2002.2.28

借 方		貸 方	
科 目 名	金 額	科 目 名	金 額
現金	142,807	一般会計剰余金	6,021,105
郵便振替	8,421,670	特別会計剰余金	17,429,719
普通預金(東京三菱銀行)	10,884,248	前受金	54,000
定期預金(東京三菱銀行)	7,500,000	退職給与積立金	5,007,000
定額貯金(南大塚郵便局)	5,007,000	13年度国会請願募金	3,443,901
合 計	31,955,725	合 計	31,955,725

現預金残高明細書

2002.2.28

項 目	金 額	備 考
現金	142,807	手持ち有高
普通預金	10,884,248	東京三菱大塚支店 No.0925188
定期預金	7,500,000	同 上 No.0925188
定額貯金	5,007,000	南大塚郵便局
郵便振替	8,421,670	00150-0-128390
合 計	31,955,725	

2001年度会計監査報告書


私たち監査は、東京都腎臓病患者連絡協議会の2001年度の決算報告書、すなわち現金、銀行預金、元帳、現金出納帳等について監査し、その結果、すべての経理処理手続きは公正、妥当と認められました。

2002年3月11日

会計監査

梅原伸之 

同

加藤要 

備 品 等 一 覧

2002.2.28 現在

購入日	品 名	金 額	備 考
1977.10.26	レタースケール (6 kg)	5,600	
1978.5.16	事務机 SD-S65-3P 1台	15,000	
1978.5.16	事務椅子 CR25 1脚	8,000	
1981.7.17	折畳み椅子 FC318N 4脚	21,500	
1981.2.25	作業用テーブル FT-640 2台	58,800	
1981.2.25	耐火金庫 D-26	50,600	
1986.2.27	冷蔵庫 SJ8085G、書庫 S-2335	30,000	田沼事務所より下取り
1986.2.28	掃除機 TC-A90	24,400	
1986.4.11	ワープロ RICOH RIPOORT4600		5年リース解消 廃棄
1986.5.12	事務椅子 KC170N 1脚	7,000	
1986.11.28	ホワイトボード	20,000	
1989.1.9	ファクス KONICAFAX110		寄贈品 下取り処分
1989.2.27	ワープロ RICOH RIPOORT5300		5年リース解消
1991.2.18	作業用テーブル FT-640 2台	80,000	
1993.5.25	コピー機 リコーFT4525	412,000	
1993.8.31	コクヨ書棚 2本	9,270	
1994.6.7	印刷機 VT2620	976,440	5年リース終了・廃棄
1994.9.30	ワープロ リコーNT-380	118,000	
1994.12.26	紙折り機 LF-300	92,700	
1995.2.28	シュレッダー リコー2211PT	103,000	
1995.5.8	ノート PC DynaBookSS450	329,600	
1995.5.31	手提金庫	10,400	
1995.6.2	ワープロ リコーNV-710	154,800	
1995.11.29	プリンターCANON LBP730	175,100	
1996.2.28	電動ホチキス	27,000	
1996.4.24	パソコン IBM Aptiva	366,680	廃棄
1996.4.30	事務椅子 4脚	85,000	
1996.7.8	卓上型梱包機	290,000	
1997.2.28	事務椅子 1脚	23,800	
1997.4.3	パソコン IBM PC340 NEC スキャナー NEC プリンター PICTY200		日本障害者リハビリテーション協会より貸与
1997.4.15	カメラ MINOLTA カピオス	19,800	

購入日	品名	金額	備考
1998.7.9.	ノンボルトシェルピング3台 BS型片袖デスク1台 BS型サイドミーティングテーブル1台 BS型片袖デスク4台 バイオテックチェア-NSシリーズ8台 角テーブル(ソフトエッジ)212 1台 会議用椅子M910K4脚 BWNトレユニット1式2台 ビジネスユニットL51一式 ビジネスユニット25一式	21,700 43,000 45,000 37,000 25,500 27,000 14,200 66,650 54,650 58,650	新事務所移転購入
1998.8.21.	台車TK-101台 兼用脚立SP-34N	10,920 13,580	新事務所移転に付
1998.8.14.	掃除機1台 センサーオープンレンジ1台	29,190 19,929	寄贈品 寄贈品
1998.8.17.	食器棚1260	12,936	寄贈品
1999.1.20.	NEC製ファクシミリ1台 リコー製印刷機1台(60ヵ月リース)	257,250 697,000	
2000.1.17	SHARP液晶モニター-LL-T1500A	131,040	
2000.10.2	DELL PC Dimension4001	194,775	
2000.10.3	コクヨキャビネット BWN-C32FINN	39,800	
2000.12.18.	多人数用ロッカー LK-10-IV	26,670	
2001.09.10	オートコレクターUC1000	249,950	
1998.7.9	一橋ビル新本社ビル6階半室敷金	238,800	
他に全賢協から寄贈された書棚2台、ロッカー1台、書庫2台、事務椅子1脚があります。			

二〇〇二年度活動方針(案)

東腎協は本年11月、結成30周年を迎えます。

今から30年前は、ようやく透析に更正医療が適用となった年です。これ以前は健保本人以外は高額な自己負担がかかるため、透析にかかれば助かるかとわかっていてもあきらめたり、また、人工腎臓の数が限られていたため、お金があっても透析にかかれないう状態が続いていました。

その後、私たちの運動もあつて、透析医療は順調に発展してきました。しかし、私たち透析患者を巡る環境はこの10年間、悪化の一途をたどっています。透析医療費については、1992年に検査料にマルメが導入され、これを機に検査回数が減らされるなどの大きな影響がありました。今年4月からは透析時間による段階的な診療報酬が一元化され、さらに食事加算が廃止されるなど透析の医療費は大きく後退しました。

東京都においては財政難を理由に、2000年度から臓器移植キヤンペーンや、腎臓病を考える都民の集いへの予算化がはまれていません。また、福祉面ではマル障の後退は私たちにとって忘れることができません。さらに昨年度は大久保病院を含む都立病院の合理化案が発表されています。

私たち患者自身の問題としては、透析アミロイドシスや骨関節症などQOLを著しく阻害する合併症問題、また、患者の高齢化や重症化などによる要介護者の問題が顕著化しています。

一方、組織的には順調に発展し、10年前の会員数4,700人が7,000人余りに拡大しました。しかし最近、患者や役員の高齢化や重症化など、会を拡大する条件が悪くなるなどの理由もあつて、組織化の伸び率は停滞しています。

こうしたさまざまな困難の中で

東腎協は結成30周年を迎えます。これを機にこの厳しい環境の中、東腎協をどう導いていくのか。現在在会員となつている私たちの使命です。

今年度は、腎臓病の研究・予防・治療から社会復帰まで含めた腎疾患総合対策の確立を中心に結成30周年記念事業の成功を期し、下期の方針にもとづき1年間の活動をすすめていきます。

I 医療体制などの整備に関する運動

1 「都立病院改革会議報告書」にある都立病院の移転統合・統廃合・地域病院化は止め、都の直営を守り下記項目を実現すること。

①すべての都立病院に腎外来を設置し、外来透析及び夜間透析を実施・拡充すること。

②都立府中病院については、緊急に透析室を拡充し、スタッ

フの確保を図ること。
③都立大久保病院については、長期透析の合併症、特に整形外科系の合併症に対応できるよう診療内容を充実すること。

④都立豊島病院については、糖尿病からの透析治療を中心とした腎不全センターを設置すること。

⑤老人医療センター内に高齢者腎不全センターを設置すること。

2 その他の運動

①乳幼児、児童、生徒、学生、勤労者、家庭婦人、自営業者などに対する検尿を完全実施し管理体制を確立すること。

②糖尿病性腎症の透析患者を増やさないため、糖尿病性腎症の知識普及や予防・管理体制を推進すること。

③多摩南部地域病院における透

析治療は、導入透析や合併症に対応できる地域透析センターとして整備すること。

④鳥しよにおける透析は、看護師・臨床工学技士などの医療スタッフの確保を図るとともに診療内容を充実すること。

⑤看護師や臨床工学技士などの医療スタッフを確保すること。

⑥高齢者福祉・医療の複合施設は透析患者が利用できる施設にすること。

II 臓器移植意思表示カードの普及など、腎移植推進のための運動をすすめます。

III 医療費、生活保障に関する運動

①慢性腎炎患者の医療費を公費負担すること。

②心身障害者医療費助成制度や東京都医療費助成制度を改正前に戻すこと。

③内部障害者は、4級まで医療費を公費負担すること。

④心身障害者福祉手当を増額し、支給要件を改正前に戻す

こと。

⑤「福祉のまちづくり」実施のため、その予算確保に最大限努力すること。

⑥障害者の旅客運賃割引制度の距離制限を廃止し、特急料金も割引対象とするよう国等へ働きかけること。

⑦障害者、難病患者に対し、民営バスの無料乗車券を発行すること。

⑧既存の東京都施設内の会議室を障害者に開放すること。

⑨要介護透析患者や合併症を持った透析患者の対策についての運動をすすめること。

⑩介護保険制度で透析患者の移送サービスの実現をめざすこと。

⑪透析施設間ネットワーク化や通院の確保など、地震などの災害時に緊急な緊急透析治療体制を早急に確立すること。

⑫人工透析をしている障害者や東京都職員に採用すること。

⑬腎機能障害者の雇用を促進すること。

IV 東腎協の結成30周年を

記念して次の事業を行います。

①記念総会を4月21日に西新宿・セブンシティで開催します。

②会員実態調査を調査日10月1日で行い、報告書を発行します。

③記念祝賀パーティを11月24日に開催します。(会場未定)

④東腎協の活動ビデオを制作し、記念祝賀パーティで発表します。

⑤30周年記念誌を11月に発行します。

⑥緊急時透析患者手帳の改訂版を作成し、全会員に配布します。

⑦会員拡大用のパンフレットを作成します。

V 組織強化と教育・宣伝のために次の運動をすすめます。

①会員拡大を図り、次の総会までに7,500人を目標とします。

②青年部の活動を強化するため

学習交流会などを開催します。

③幹事・常任幹事を対象とした学習会を開きます。

④各腎友会の組織強化を図ります。

⑤ブロック活動を活発にし、病院腎友会及び会員相互の交流を深めます。

⑥地方分権化の推進に伴い、区市町村単位の患者会の結成に努めます。

⑦腎臓病の知識普及のため、「腎臓病を考える都民の集い」を開催し、報告集を発行します。

⑧機関誌「東腎協」を定期発行します。さらに、速やかな情報伝達のために「とうじんきょうニュース」を必要に応じて発行します。

⑨今後ますます厳しさを増す医療情勢や、会員増、活動の多様化などに対応するため、事務局体制の強化を図ります。

VI

医療、福祉の全国的な問題に関しては、全腎協とともに運動をすすめます。

VII

東難連や要望が一致する他の団体と連携・協力して、医療と福祉のための運動をすすめます。

VIII

要望事項を実現するため、都庁要請、都議会をはじめ関係機関への要請活動等を行います。

IX

患者の受診抑制につながる医療保険制度の抜本改革に反対し、誰でもが安心して治療が受けられる医療制度の確立を目指して、運動をすすめます。

メ モ 欄

30周年記念事業特別会計予算案(期間 2002.3.1から2003.2.28)

単位:円

科 目	金 額	備 考
収入の部		
2001年度積立金	2,000,000	
2002年度積立金	2,000,000	
特別会計繰入金	1,000,000	
寄付金	4,000,000	
合 計	9,000,000	
支出の部		
30周年記念誌の発行	3,000,000	
ビデオ制作費	2,000,000	
実態調査	2,000,000	
記念パーティ	2,000,000	
合 計	9,000,000	

単位：円

2002年度予算案			
予算額	内訳	01年対比	備 考
38,340,000		100.0%	7,100人×5,400円
1,000,000		500.0%	鶴田クリニック、扶桑薬品他
3,500,000			第31次国会請願募金
500,000			
1,913,800			
	3,800		「東腎協」、緊急時手帳
	1,350,000		「東腎協」掲載広告料
	500,000		全腎協の委託販売書籍、物品
	60,000		病院腎友会の印刷
7,000			
45,260,800		115.1%	
23,450,824		97.2%	
68,711,624		108.3%	

2002年度予算案

(2002.3.1~2003.2.28)

〈収入の部〉

科 目		2001年度予算		2001年度決算		
		予算額	内 訳	予測額	内訳	
収 入 の 部	会費収入	38,340,000		38,307,550		
	寄付金収入	200,000		301,500		
	募金収入					
	協賛金等収入					
	事業収入			1,413,940		
		会報等頒布収入				3,800
		広告料収入				1,350,000
		物品販売収入				
		資料印刷代収入				60,140
	預金利子				7,798	
	雑収入	800,000				
当期収入合計	39,340,000		40,030,788			
30周年記念事業費						
前期繰越収支差額	24,118,591		3,800,036			
合計	63,458,591		43,830,824			

2002年度予算案			
予算額	内訳	00年対比	備 考
2,600,000		94.5%	都民の集い(含む報告集、発送費)、国会請願上納金(31次)
800,000		95.8%	腎キャンペーンに係わる経費すべて
1,090,000		103.8%	ブログ71万、会員12万、学習10万、地域13万、結成時助成金3万
300,000		100.0%	全国・関B・東京青年交流
3,900,000		108.3%	
	2,500,000		4回分、内2回分はA4版4色
	400,000		
	1,000,000		東腎協4回、全腎協6回 第3種以外の発送は業者委託
5,000,000			2001年度積み金200万含む
1,600,000			結成祝金3万×5件、しおり印刷代、発送代
900,000			緊急時透析患者手帳印刷代、発送代
100,000			
60,000			テープ代、発送代
3,400,000		95.8%	
	1,700,000		総会会場費、議案書、弁当代、講師謝礼他
	800,000		幹事会・常任幹事会交通費(宿泊1回)、会場費
	700,000		秋田大会30万円、関B会議、関B災害対策他
	200,000		三役会議・各委員会日当・交通費
12,982,000		100.1%	
	12,780,000		分担金7,100人×1,800円
	142,000		分担金7,100人×20円
	60,000		障定協、無年金、EPO
1,000,000			都庁要請他人件費
250,000			
33,982,000			

〈支出の部1〉

科 目		2001年度予算		2001年度決算	
		予算額	内 訳	予測額	内訳
支 出 の 部	1 事業費				
	腎疾患対策事業費	2,750,000			
	腎移植推進事業費	835,000			
	交流事業費	1,050,000		480,003	
	青年部事業費	300,000		301,235	
	会報発行事業費	3,600,000		3,325,407	
		印刷費		2,500,000	2,273,985
		編集費		400,000	412,812
		発送費		700,000	638,610
	30周年記念事業費				
	組織対策事業費				
	災害対策事業費				
	メディア事業費	インターネット・HP維持費 声の会報			
	会議費		3,550,000		3,155,604
		総会費		1,700,000	1,492,036
		役員会費		700,000	781,951
		全腎協関係費		900,000	718,816
	その他会議費		250,000	162,801	
事業分担金		12,968,256		12,946,320	
	全腎協分担金支出		12,780,000	12,769,200	
	東灘連分担金支出		142,000	140,000	
	その他の分担金支出		46,256	37,120	
事業行動費		3,000,000		1,408,467	
物品購入費					
1 事業費小計					

(経費の出支)

2002年度予算案			
予算額	内訳	00年対比	備 考
8,484,000		93.5%	
	6,285,000		据置
	419,000		
	1,400,000		2人
	150,000		傷害保険
	230,000		
6,628,932		92.1%	
	3,316,932		事務所賃貸料276,411円×12ヶ月
	300,000		電気・ガス・水道料金
	1,000,000		会議資料等発送費、切手代、電話代、
	800,000		PC2台、リース代他
	200,000		事務用消耗品
	150,000		都政新報、新日本法規他
	700,000		コピー用紙、インク、封筒、名刺、チャージ料他
	12,000		
	150,000		火災保険
15,112,932			
49,094,932		110.8%	
1,200,000		300.0%	
50,774,932		113.5%	
17,936,692		95.7%	

〈支出の部 2〉

科 目		2001年度予算		2001年度決算	
		予算額	内 訳	予測額	内訳
2 管理費					
人件費		9,071,710		8,768,295	
	給料		6,285,000		6,285,000
	退職積立金		419,000		419,000
	アルバイト料		2,139,350		1,839,415
	保険料				
	通勤交通費		228,360		224,880
管理経費		7,200,070		6,415,335	
	事務所管理費		3,460,212		3,479,730
	光熱費・水道料金		300,000		300,831
	通信費		1,400,000		1,014,798
	備品費		520,000		482,480
	事務用品費		200,000		187,344
	新聞図書費		150,000		84,422
	印刷費		1,000,000		619,191
	保険料				
	雑費		169,858		246,539
2 管理費小計					
合計		44,325,036		36,800,666	
予備費		400,000		400,000	
総合計		44,725,036		37,200,666	
次期へ繰越		18,733,555		6,630,158	

第30回総会宣言(案)

本年度、東腎協が結成されて30年の記念の年を迎えることになりました。会員一同の喜びに併せ、諸先輩の活動の軌跡を思い起こすことも大事なことではないかと思えます。この30年間の透析医療の改善と透析医療費助成の確立を振り返ると、諸先輩が命を犠牲にして活動してきたことや、多くの人たちの理解とご支援があったからこそ、今日の透析医療の実績を見ることが出来ると思えます。

このような30周年の記念すべき年にもかかわらず、中医協から平成14年の診療報酬改定の答申が出た2月20日は、私たちにとって忘れることの出来ない日となりました。財政難を理由に、改革の一つとして、医療保険制度の改悪に伴う診療報酬の改定で、透析医療費について、①透析時間制を廃止して一本化、②食事加算の廃止、③外来医学管理料の引き下げ、などの答申があり、4月1日より実施することが決定されました。私たちは、各施設へ透析の質の低下をきたさないように要望していきます。

一昨年の東京都財政再建推進プランの背景を思い起こすと、今日の事情が裏付けにあったのではないかと判断せざるを得ません。また、昨年出された都立病院改革会議報告など、これからの私たちの透析医療を考えると、厳しい状況下に置かれていることが分かります。私たちは今、この現実を見つめ、新しい活動の方向を求めなくてはならないと思えます。

私たちの透析医療に対して、多くの理解と支援を得ることも、活動の課題ではないかと、心から求めるものであります。会員の皆さんの真摯な意見と要望を基調として、東腎協は、今までの活動の継続と新しい活動の方向を示し、7,100人の会員のみならず東腎協未加入者と共に、私たちの「命と暮らしを守る」活動を発展させます。そのために、現状の透析医療を維持し、会員の総力をあげて、前に進まなくてはなりません。

ここに、本日の総会の方針を新たな起点として、意思の統一を図り、明るい明日に向かって歩みを進めていくことを、第30回記念総会の総意として宣言いたします。

平成14年4月21日

東京都腎臓病患者連絡協議会

2002年度役員候補者名簿

2月28日現在

No.	役職名	氏名	会名	備考
1	会長	渡辺 忠志	虎の門・高津会	○
2	副会長	押山 大作	個人会員	○
3	副会長	榊原 靖夫	高中腎友会	○
4	副会長	佐々木 利喜栄	森山病院友の会	○
5	副会長	原 三代吉	新小岩クリニック友の会	○
6	副会長	藤原 実	嬉泉病院二一レ友の会	○全腎協担当
7	事務局長	森 義昭	虎の門・高津会	○
8	事務局次長	木村 妙子	上野しのばず会	○
9	事務局次長	田中 助成	聖路加二一レ会	○
10	会計	井上 寧枝	吉祥寺あさひ腎友会	○
11	常任幹事	生井 克子	阿佐谷すすき腎友会	○
12	常任幹事	一川 和夫	あけほの友の会	○
13	常任幹事	一ノ清 明	虎の門・高津会	○
14	常任幹事	小川 嗣雄	立川北口駅前腎友会	○
15	常任幹事	小田原 庸吉	吉祥寺あさひ腎友会	○
16	常任幹事	小野 協子	東海病院ひまわり会	○
17	常任幹事	軽部 和之	希望会	○
18	常任幹事	木下 久吉	山田クリニック腎友会	
19	常任幹事	久保 正業	松和患者会新宿南口支部	○
20	常任幹事	小泉 左内	杏林腎友会	○
21	常任幹事	高橋 勇二郎	田端駅前クリニック	○
22	常任幹事	戸倉 振一	森山病院友の会	○
23	常任幹事	東野 榮夫	あけほの友の会	○
24	常任幹事	富山 光子	嬉泉病院二一レ友の会	○
25	常任幹事	野口 美津枝	羽村相互診療所たんぼほの会	○
26	常任幹事	納島 慶吉	新小岩クリニック友の会	○
27	常任幹事	堀 和正	高中腎友会	○
28	常任幹事	柳 光夫	小豆沢病院腎友会	○
29	常任幹事	吉田 芳子	南大沢パオレ腎友会	○
1	オブザーバー	阿部 敏弘	吉祥寺あさひ腎友会	○新
2	オブザーバー	小関 盛通	柳原クリニック健腎会	新
3	オブザーバー	渡辺 千晃	三鷹北口クリニック腎友会	新
1	相談役	糸賀 久夫	松和患者会新宿南口支部	○新
1	会計監査	梅原 伸之	虎の門・高津会	○
2	会計監査	候補者		
1	事務局員	広瀬 憩子	くにたち桜会	

No.	役職名	氏名	会名	備考
1	幹事	安藤 巴	愛和腎友会	○新
2	幹事	小椋 徳智子	青山会	○
3	幹事	八重樫 康夫	赤羽中央病院腎センター腎友会	○
4	幹事	宮本 保	昭島腎クリニックひまわり会	○
5	幹事	田畑 一子	秋葉原腎クリニック腎友会	○新
6	幹事	溝田 勇夫	あけぼのクリニック友の会	○
7	幹事	尾沼 敬三	あけぼの友の会	○
8	幹事	上垣 保朗	阿佐谷すずき腎友会	○新
9	幹事	西村 竹俊	小豆沢病院透析友の会	○
10	幹事	佐藤 行成	飯田橋クリニック腎友会	
11	幹事	渡辺 峰男	井口腎友会	○新
12	幹事	篠原 孝昭	板橋駅前板友会	○
13	幹事	中山 正作	稲城市立病院腎友会	
14	幹事	大久保 明雄	今尾医院腎友会	○
15	幹事	杉浦 健祐	入谷クリニック腎友会	
16	幹事	清水 正平	岩本町腎クリニック友の会	
17	幹事	鈴木 澄子	上野しのばす会	○
18	幹事	中嶋 仁司	大島腎友会	○
19	幹事	蒲原 栄子	大田病院腎患者会	○
20	幹事	太田 慶彦	大橋クリニック友の会	
21	幹事	山田 洋司	大山腎友会	
22	幹事	川島 行雄	小笠原クリニック友の会	○
23	幹事	松山 清	小作クリニック	
24	幹事	石井 堅太郎	織本病院腎友会	
25	幹事	荒巻 好美	菊川橋クリニック腎友会	
26	幹事	高田 照男	嬉泉病院ニレ友の会	新
27	幹事	吉田 悦男	北多摩病院腎友会	
28	幹事	長谷川 明夫	北病院腎友会	
29	幹事	樋口 緑子	吉祥寺あさひ腎友会	○新
30	幹事	佐藤 真佐子	希望会	○
31	幹事	長坂 希望	境南クリニック患者会	
32	幹事	篠田 喜代	貴友会王子病院友の会	○
33	幹事	伊藤 保雄	杏林腎友会	
34	幹事	松崎 正義	くにたち桜会	○新
35	幹事	高橋 国一	桑の実会	○
36	幹事	中脇 賢蔵	薫風園腎友会	
37	幹事	森田 京子	小池内科患者会小池会	○新
38	幹事	吉川 好幸	江東橋腎友会	
39	幹事	高倉 正子	国分寺こやま腎友会	
40	幹事	星野 浩二	国分寺南口クリニック親光会	
41	幹事	中村 治兵衛	サボテン会	
42	幹事	里山 保	三軒茶屋病院腎友会	
43	幹事	中村 敏邦	十条腎和会	○
44	幹事	永森 美智子	松和患者会新宿南口支部	○
45	幹事	田中 克人	松和患者会西新宿支部	○
46	幹事	石川 一男	新緑池袋クリニック腎友会	
47	幹事	安部 克明	新小岩クリニック友の会	○

No	役職名	氏名	会名	備考
48	幹事	清水 国衛	新宿水明クリニック腎友会	○
49	幹事	加藤 明	新松山病院友の会	
50	幹事	関口 礼子	腎研友の会	
51	幹事	猪瀬 恵美子	すずらん腎友会	
52	幹事	柳下 征弘	聖蹟さくら会	○新
53	幹事	田中 新一	聖路加ニール会	○
54	幹事	竹川 和明	成和腎クリニック友の会	○
55	幹事	函師 リツ子	高尾もみじ会	
56	幹事	大貫 利男	高中腎友会	○
57	幹事	山路 忠彦	高松病院患者会	
58	幹事	松本 孝雄	高山クリニック友の会	○
59	幹事	浅見 正治	竹口病院腎友会	
60	幹事	中村 文子	立川北口駅前腎友会	○
61	幹事	阿閉 安男	立花クリニック友の会	
62	幹事	調布病院腎友会	調布病院腎友会	
63	幹事	渡邊 靖	調布東山クリニック腎友会	○
64	幹事	岩橋 勝子	鶴田クリニック友の会	
65	幹事	猪狩 奈美枝	帝京大学病院腎友会	○
66	幹事	山口 猛	天神橋クリニック腎友会	
67	幹事	渡辺 精二	東海病院ひまわり会	
68	幹事	会沢 常謙	東京共済病院腎友会	
69	幹事	舟木 茂	東京厚生年金病院腎友会	
70	幹事	桐島 伸曠	東和病院腎友会	○
71	幹事	高崎 豊彦	虎の門・高津会	○
72	幹事	篠原 栄一	中野クリニック腎友会	
73	幹事	武藤 富美子	長久保クリニック腎友会	
74	幹事	渡辺 正一	西口21友の会	
75	幹事	成田 美恵子	日仲駅前クリニック腎友会	
76	幹事	中島 良明	長谷川病院腎友会	
77	幹事	遠藤 洋一	羽村相互診療所たんぼの会	○新
78	幹事	清水 泰一	東高円寺フェニックス会	○
79	幹事	戸嶋 勝雄	聖橋クリニック腎友会	
80	幹事	相馬 きみ代	深川橋クリニック腎友会	
81	幹事	井上 邦男	福生病院こでまり会	
82	幹事	村上 ひろ	府中けやき会	○
83	幹事	石山 久美子	豊生会	○新
84	幹事	大木 英	望星田無友の会	
85	幹事	浅岡 正義	すずらんの会	○新
86	幹事	新井 静雄	町谷原クリニック腎友会	
87	幹事	大澤 富雄	松村クリニックすみれ会	
88	幹事	藤田 一	みさと健腎会	
89	幹事	多田 可子	瑞江腎クリニック腎友会	
90	幹事	瀬賀 康平	三鷹北口クリニック腎友会	
91	幹事	野崎 順子	南大沢パオレ腎友会	○
92	幹事	大野 幸子	南千住病院河童会	○新
93	幹事	小堀 明人	南多摩病院のばら会	
94	幹事	森 善哉	武蔵境駅前クリニック腎友会	○

No	役職名	氏名	会名	備考
95	幹事	田島 伸介	村上医院ひまわり会	○新
96	幹事	宗像 聡之	森山病院友の会	○
97	幹事	青木 智子	大和病院透析友の会	
98	幹事	腎友会	谷中三和クリニック腎友会	
99	幹事	田口 一郎	柳原健腎会	
100	幹事	渡辺 光子	山田クリニック	
101	幹事	北爪 勇	湯島腎友会	○
102	幹事	山崎 巨夫	代々木病院腎友会	○
1	サテライトター	菅原 八重	代々木病院腎友会	
2	サテライトター	道岡 勝人	人工腎臓虎の門・高津会	○
1	グループリーダー	山下 和子	青梅市立病院	
2	グループリーダー	岡田 房子	相武台ニーレンクリニック	
3	グループリーダー	久保田 由美子	東葛クリニック小岩	
4	グループリーダー	石井・武田	西クリニック(武田G)	
5	グループリーダー	新山 簡子	西クリニック(新山G)	
6	グループリーダー	島田 孝司	東村山診療所	
7	グループリーダー	高橋 勇二郎	東京女子医大田端グループ	
8	グループリーダー	大塚 栄子	八木内科	
9	グループリーダー	鈴木 智美	町屋駅前クリニック	

文書発言もできます

東腎協規約第6条で、総会に対して文書による発言も認められています。

なお、総会議案に対する意見のある方は、文書にして、4月18日必着で東腎協にお送り下さい。

〈送り先〉

〒171-0005 東京都豊島区南大塚2-38-1

一橋ゼミナール新本社ビル6F

東腎協事務局

2001年度国会請願署名・募金集計表

会	名	会員数	会費総	入会費	募金額	会	名	会員数	会費総	入会費	募金額
001	豊和親友会	72	833	773	27,600	001	江戸川工部局親友会	24	250	250	15,000
002	豊山会	2	30		3,000	002	江戸川工部局親友会	103	333	325	25,760
003	豊山会	12	152		20,000	003	江戸川工部局親友会	102	329	333	18,000
004	豊山会	132	1,252		1,330	004	江戸川工部局親友会	102	371	190	25,100
005	林業親友会	188	330		24,600	005	江戸川工部局親友会	60	572	654	55,100
006	林業親友会	70	612		29,190	006	江戸川工部局親友会	15	132	132	2,000
007	徳仁の会	240	548		54,000	007	江戸川工部局親友会	91	410	410	42,180
008	徳仁の会	77	417		36,330	008	江戸川工部局親友会	120	489	500	11,000
009	小宮大塚親友会	43	40		3,000	009	江戸川工部局親友会	11	47	47	3,000
010	山口親友会	105	129		41,000	010	江戸川工部局親友会	103	412	422	37,000
011	山口親友会	105	129		41,000	011	江戸川工部局親友会	170	934	977	80,000
012	名古屋親友会	50	170		6,000	012	江戸川工部局親友会	38	161	141	27,300
013	名古屋親友会	19	139		13,900	013	江戸川工部局親友会	47	430	440	27,300
014	名古屋親友会	65	540		16,200	014	江戸川工部局親友会	29	74	74	219
015	名古屋親友会	30	224		27,000	015	江戸川工部局親友会	20	216	216	13,000
016	名古屋親友会	46	36		3,900	016	江戸川工部局親友会	46	350	350	18,300
017	名古屋親友会	46	1,227		20,200	017	江戸川工部局親友会	48	767	671	24,000
018	大前親友会	16	475		45,800	018	江戸川工部局親友会	105	602	601	102,700
019	大前親友会	46	475		45,800	019	江戸川工部局親友会	71	643	660	46,300
020	大前親友会	70	470		46,750	020	江戸川工部局親友会	63	785	703	42,300
021	小宮親友会	82	886		24,080	021	江戸川工部局親友会	89	852	800	40,200
022	小宮親友会	43	212		19,080	022	江戸川工部局親友会	131	586	586	45,000
023	小宮親友会	60	530		46,500	023	江戸川工部局親友会	49	49	49	7,000
024	朝日親友会	72	3,066		185,160	024	江戸川工部局親友会	131	586	586	45,000
025	北豊親友会	10	81		5,160	025	江戸川工部局親友会	23	210	210	22,000
026	北豊親友会	10	81		5,160	026	江戸川工部局親友会	24	310	300	26,636
027	北豊親友会	58	103		1,217	027	江戸川工部局親友会	11	377	376	20,000
028	北豊親友会	157	1,211		63,730	028	江戸川工部局親友会	42	192	192	10,000
029	徳和親友会	38	152		13,400	029	江戸川工部局親友会	36	210	208	22,000
030	徳和親友会	18	198		20,000	030	江戸川工部局親友会	6	1,054	1,072	86,100
031	徳和親友会	25	363		34,500	031	江戸川工部局親友会	74	326	326	39,100
032	徳和親友会	56	466		64,990	032	江戸川工部局親友会	78	2,480	2,480	180,180
033	徳和親友会	44	782		761	033	江戸川工部局親友会	15	270	270	15,000
034	徳和親友会	10	51		10,000	034	江戸川工部局親友会	18	100	100	37,020
035	小宮親友会	16	134		14,000	035	江戸川工部局親友会	54	55	55	7,000
036	小宮親友会	56	134		14,000	036	江戸川工部局親友会	31	205	196	5,000
037	小宮親友会	96	614		50,000	037	江戸川工部局親友会	19	270	280	15,000
038	国分寺南口ワニワニ親友会	69	736		743	038	江戸川工部局親友会	15	100	100	3,000
039	国分寺南口ワニワニ親友会	38				039	江戸川工部局親友会	109	545	533	37,020
040	ワニワニ親友会	108	461		16,000	040	江戸川工部局親友会	10	40	40	
041	ワニワニ親友会	103	722		20,000	041	江戸川工部局親友会	5,473	43,528	3,011,011	
042	ワニワニ親友会	27	272		13,200	042	江戸川工部局親友会	292	284	284	20,300
043	ワニワニ親友会	53	278		44,880	043	江戸川工部局親友会	178	128	128	2,000
044	ワニワニ親友会	64	581		12,000	044	江戸川工部局親友会	9	176	176	2,000
045	ワニワニ親友会	56	255		247	045	江戸川工部局親友会	5	40	40	2,000
046	ワニワニ親友会	206	1,951		15,000	046	江戸川工部局親友会	7	100	100	2,000
047	ワニワニ親友会	23	189		38	047	江戸川工部局親友会	5	40	40	2,000
048	ワニワニ親友会	156	816		58,300	048	江戸川工部局親友会	5	40	40	2,000
049	ワニワニ親友会	46	418		31,200	049	江戸川工部局親友会	2	40	40	76,780
050	ワニワニ親友会	52				050	江戸川工部局親友会	10			
051	ワニワニ親友会	89	740		38,250	051	江戸川工部局親友会	10			
052	ワニワニ親友会	89	300		10,000	052	江戸川工部局親友会	138	1,192	1,194	103,090
053	ワニワニ親友会	17	32		37,000	053	江戸川工部局親友会	510	1,780	1,559	329,600
054	ワニワニ親友会	27	52		21,500	054	江戸川工部局親友会	1,780			
055	ワニワニ親友会	50	253		12,100	055	江戸川工部局親友会	6,190	290	290	
056	ワニワニ親友会	14	153		16,300	056	江戸川工部局親友会	7,121	50,906	46,611	3,423,301
057	ワニワニ親友会	74	113		34,300	057	江戸川工部局親友会				
058	ワニワニ親友会	59	697		697						
059	ワニワニ親友会	59	697		697						

二〇〇二年度スローガン(案)

- 一、腎臓病の予防、治療、研究から社会復帰にいたる腎疾患総合対策の確立を!
- 二、誰でもが安心して受けられる医療制度の確立を!
- 三、心身障害者医療費助成制度の復活と医療・福祉施策のますますの発展を!
- 四、通院が困難な透析患者への移送サービス実現を!
- 五、臓器提供意思表示カードの普及と献腎移植の推進を!
- 六、働ける腎機能障害者に職場復帰の道を!
- 七、区市町村での医療・福祉の充実を!
- 八、地震などの災害時における緊急透析体制の早期確立を!
- 九、医療ミスの予防と感染予防の徹底を!
- 十、活動内容を充実し、すべての腎疾患患者の結集を!